



もっもタウンミーティングを

第一部 「町長からみなさんへ」

「町政運営には、情報公開、情報の交換と共有が必要不可欠であり、町民の方々と職員が一体となった情熱の集まりで、まちづくりをしていきたいと考えております。

また、初登庁の日の挨拶では、職員には民間の感覚でスピード感をもって仕事に臨む必要があることを強調しました。

四月二十日に「葉山のこれからを森町長といっしょに考えよう！」と題して、第一回葉山町タウンミーティングが福祉文化会館で開催されました。

当日は、二二〇人の参加があり、異文化コミュニケーションのマリ・クリステイヌさんを司会に、葉山を次世代によりよく残すにはどうしたらいいか、方向性や方法論が壇上のみならず会場からも出されました。

第三部 「これからのタウンミーティングについて」

パネルディスカッション
・玉川まちづくりハウス運営
委員長の伊藤雅春氏

葉山でも応用できそうな、他自治体での様々なタウンミーティングの実例を紹介いただきました。

・オーシャンファミリー海洋自然体
験センター代表の海野義明氏

葉山での幼少期の実体験や生活体験、最近の子どもたちと接する中から感じている過去と現在のギャップを踏まえて、今後の葉山についてご提案いただきました。

・葉山町国際交流協会スタッフの駒田祐子氏

主婦、母としてまた学校教育の現場にかかわった経験や国際的な視点からのお話がありました。

・町長

印象に残った話と今後のタウンミーティングについての考えをお伝えしました。



▶タウンミーティングに先立って提出された意見を熱心に読んだりアンケートに答える参加者
▲左から伊藤氏、海野氏、駒田氏、町長

■今後の予定

「町長と語ろう！〜ふれあい座談会〜」を開催します。

町長が皆さんの地区をお伺いして、地域で抱えている問題など、町対するご意見やご提案を直接お聴きします。皆さんと情報を共有し、さらに相互理解を深め、町政へ反映したいと考えております。

ふれあい座談会については、広報八月号でお知らせします。皆さんの貴重なご意見、ご参加をお待ちしています。

なお、タウンミーティングについては、ホームページにも掲載しています。

問合せ 町民サービス課

☎内線二〇六

第1回
タウンミーティング
を終えて

第二部 「葉山町のしくみ」

各部長が町役場の仕事を紹介
伊藤雅春氏からは、全部長がこう
いう集まりに出席して事業を説明す
る自治体は稀であると評価いただき
ました。

町長と語る

トーク広場

第48回

葉山にグループリビングを！ 〈高齢社会の新しい暮らし方〉

町長 NPO法人「グループリビング葉山」が誕生して、はや二年ですね。何がきっかけですか。

上野 藤沢でグループリビングづくりに取り組んでいるNPO法人「COCO湘南」の西條節子さんの講演を聞き、「自立と共生」を理念とする新しい老後の暮らし方に共感したのが、直接のきっかけです。

それからは仲間を募り、勉強会や見学会を重ねながら、葉山でもグループリビングを実現させたいと、活動を続けてきました。

町長 グループリビングは、主に認知症などの高齢者が入居するグループホームとは異なり、ごく普通の高齢者が、お互いに助け合いながら共同生活を送る、新しいスタイルの暮らし方ですよ。

清水 その通りです。最近は一入暮らしが多く、孤独死なども続出していますが、私たちはそのような暮らしは望みません。

町長 グループリビングで初めての共同生活となる人も多いわけですが、トラブルとかはどうですか？

上野 一人ひとり個性があり、長い人生を歩んできたのですから何もないうわけがありません。でも、次第に役割とかルールが決まって落ち着いてきます。

町長 グループリビングでは、入居者の自由やプライバシーには最大限の配慮をされますよね。

上野 そうです。部屋はすべて個室ですし、食事も全員が一緒に食べるのは夕食だけ。朝食や昼食は、入居者それぞれの自由に任されています。また生活上のルールなども、個人の自由を縛り過ぎないように、必要最小限にとどめています。

清水 私たちは地域との交流・地域への貢献にも大きなウェイトを置いています。

上野 例えば、グループリビングの集会所などでミニ音楽会を催し、近隣の皆さんにも参加していただく。あるいは、働くお母さんたちのために、小さなお子さんを一時的に預かる。このような形で、地域との交流や貢献ができるのでは、と考えています。

町長 いいですね。葉山でも保育園や学童保育の待機児童が解消が課題になっているので大歓迎です。

あるいは一歩進めて今後、グループリビングをつくる際は、大きめの集会所や遊戯室などを完備してもらい、そこに保育園を併設する。そんな方法を検討してみてもいいかもしれません。

清水 面白いアイデアですね。高齢者も毎日、孫のような子どもたちと交流ができ、きっと喜ぶでしょう。

町長 とところで、葉山でのグループリビング建設は進んでいますか。

上野 土地を貸してくださる地主さんを探している段階です。当初は土地だけお借りし、建物は自分たちでつくる予定でしたが、今は土地・建物付きで一棟丸ごとお借りする方法も含めて、応えてくださる地主さん探しに奔走しています。

清水 今、私たちは賛助会員を入れて会員数が三十八人ですが、このうち十数人がグループリビングでの共同生活を希望しています。

みなこの葉山に終の栖すまひを得たいと思っているのです。

上野 気心の知れた高齢者が一つ屋根の下に住み、共同生活を通して老後の人生を楽しみたい。そのためにも、葉山に一日も早くグループリビングを、と強く願っています。

町長 グループリビングは、高齢社会の新しいライフスタイルとして今後、ますます普及していくでしょう。一日も早い実現へ向け、ぜひ頑張ってください。

長寿社会を迎え、老後をどのように過ごすか。高齢者が増える中で、新しいライフスタイルとして、元気な高齢者たちが一つ屋根の下で共同生活を営むグループリビングが、最近各地に設立するようになっていきます。

そこで、「葉山にもグループリビングを」と精力的に活動しているNPO法人「グループリビング葉山」の上野芳子理事長と清水泰蔵理事のお二人にお話を伺いました。

